

「2024年国立台湾大学スプリングスクール派遣報告書」

京都大学農学部3年 村上 綸

①学習成果

今回のプログラムを通じて、語学学習やコミュニケーションに対する意欲が向上した。授業内外を問わず中国語を話すことに積極的になり、自信がついた。留学前は簡単な文法や単語を独学で学んでいたが、留学を通じて会話を重ねることでスピーキングとリスニングの能力が特に伸びたと感じる。また、日本と海外では学費や生活費、学習環境などに違いがあることを実感した。今後は海外の大学院に進学することも選択肢の一つとして考えるようになった。

②海外での経験

休日や空き時間に、果菜市場や植物園、寺院、故宮博物院、天文館、夜市などを訪れ、台湾の生活や文化について学び、現地の人々と交流することができた。留学当初は日本と台湾の文化は似ていると感じていたが、実際に生活し様々な場所を訪れる中で違いに気づいた。例えば、行天宮では台湾の道教の信仰心の深さを実感した。三跪九叩の参拝や擲杯での占いなど、台湾特有の宗教文化も経験することができた。また、京大OBの方と連絡をとり、お会いする機会を得た。その際、立法院を見学することもできた。台湾の政治において重要な役割を果たす場所を直接訪れることで、台湾の政治制度や考え方について学ぶことができ、強く印象に残った。食事や文化、物価、価値観が異なり、その背景にある価値観や歴史にも興味を持つようになった。

③プログラム内容

プログラムとして、中国語の授業に加え、Tutor Station、Cultural Lecture、Cultural Activity が用意されていた。語学授業は、事前に受けた簡単なテストと口頭試験を基にクラス分けされた。私のクラスは会話練習の時間が多く、スピーキングの能力が特に向上したと感じる。Tutor Station では台湾大学の学生と交流しながら会話練習や課題に取り組んだ。気軽に中国語や文化について質問することができた。Cultural lecture では台湾の文化について英語で授業を受けた。今回の講義では台湾の芸術、音楽、茶文化について学んだ。Cultural visit では關渡、苗栗、文山農場を訪れた。台湾の信仰、自然保護活動、民族としての歴史、伝統などについて学ぶことができた。Cultural lecture と関連しており、講義で得た知識をもとに現地を訪れることができ、より深い理解につながった。Cultural Activity では、台湾の伝統工芸や食文化について実際に体験した。語学授業以外の活動では、同じプログラムに参加している他クラスの人、台湾大学の別のプログラムの参加者とも交流する機会があった。

④進路への影響について

先述した通り、今回のプログラムを通じて海外の大学院への進学も視野に入れるようになった。また台湾だけでなく、第二外国語としてとっていたスペイン語を活かし、スペイン語圏での学びや交流にも関心を持つようになった。語学の実践の場を増やし、学んだことを活かして積極的に異文化交流を深めていきたいと考えている。